

新潟県高等学校教育研究会 商業部会

新潟県立長岡商業高等学校
教諭 長井 浩美

1 期 日	令和2年10月13日(火)
2 場 所	新潟県立長岡商業高等学校 道の駅「ながおか花火館」
3 主 催	新潟県高等学校教育研究会
4 参加校	12校 (24名)
5 日 程	
受 付	10:00～10:10
開 会	10:10～10:20
講 演①	10:20～11:35
質疑応答・研究協議	11:35～11:45
見学・講 演②	13:10～15:00
指 導 講 評	15:00～15:20
閉 会	15:20～15:30

6 講演①

演題 「食を通じた地域活性化について」

講師 有限会社 寿々瀧

代表取締役 鈴木 将 様

ローカルから始まる地域デザインは、人づくりにつながり、地域循環、地域活性化を目指す。

SUZUグループが考える地域デザインとは、料理、飲食店、食というのはどういうものであるのか情報をどう整理して伝えていくのかを大切にしている。その中で地域デザインというものは地域課題を捉え解決し、豊かな地域未来をどう創ってデザインしていくかと考える。地域資源の循環とは、地域の食材を地産地消として使用するだけでなく、地域にとって価値があるものをしっかり継承していくということを大事に考えている。きちんと残すことが後の観光資源になっていく。地域デザイン、地方創生は人づくりが重要である。人とは生活者、お客様、スタッフ、生産者、観光客であり、すべての人がしっかりとした同じ方向を向いていることが大事である。どんなものを喜んでもらえるのか形を創るのが重要であると考えます。特にコロナ禍で大きな団体の

ツアーより、少人数のツアーや体験が今後注目されてくる。地域内のリアルな日常を切り取ったツアーも注目されてくる。これからは単純に消費するのではなく、そういった在り方もすべて変わってくる。こういったモノをおいしく買って食べるかといったこともそうだが、どのように働くか何のために働くのか、一段と機械化される中で人がどういうことで役立って地域のためになるのかの意味や買い手もそういったことが重要になってくる。そういったことを伝えるために商業は重要であると考えます。商業(ビジネス)は社会を創って人を育てていくと考え、これからは商業が地域を創りデザインしていく時代になっていくのではないかと考える。

SUZUグループの経営理念は、『食を通じて未来を創造する』。これが地域のためになる。なぜ食のおいしさを伝える必要があるのか。なぜ、売ることか。安心安全で、生産者に寄り添った発注により、フードロスの減少やSDGsにもつながるのではないかと思うからである。地域デザインを持続するための経営戦略は、お客様満足度、内部満足度、作り手、生産者のすべての人が満足することである。何のためにわが社があるのか=地域の暮らしの幸福度、魅力を食を通じて伝え未来を創造し、地域を循環させていくことと考える。地域の物が選ばれることがステータスとなる。10年後は新潟県を世界屈指の美食の町にする。そのためには商品開発をし、買う価値と働く人の価値を高め、地元の人が誇りに思えるきっかけづくりを大切にしたい。



鈴木将様による
講演の様子

7 見学・講演②

演題

『地方創生の核となる道の駅「ながおか花火館」
～誘致の事例等について～』

講師 長岡市観光・交流部観光事業課

課長 佐山 靖和 様

【見学】

2020年9月18日にオープンした「ながおか花火館」内の長岡花火ミュージアムで、『長岡まつりと大花火大会～長岡花火に込められた思い～』を鑑賞した。長岡花火に込められた慰霊、復興、恒久平和を祈る思いについての説明を受けながら、ドーム型の花火シアターで大迫力の花火を体感した。

長岡花火ミュージアムの他に、いっぴんモール（レストラン・地場産品売り場・イベントルーム）、ぷらっとモール（フードコート・コンビニエンスストア）を見学。これらは3つの棟からなっており、屋外には、ステージを作りイベントをおこなうことができる。

【講演②】

（1）道の駅「ながおか花火館」の目的

旧長岡市内には道の駅が1つも設置されていなかったが、平成28年の大合併により多くの地域資源を得たこともあり、



1年を通じて市民の誇りである長岡花火を核とした地域資源の魅力を発信し、人口の増加、地域の活性化、道路利用者の利便性の向上及び防災機能の強化を図る観光拠点施設として整備。長岡市観光戦略プランでも「県外からの観光の目的地となり得る施設」と位置づけられており、年間100万人の観光入込客数を目指している。

（2）道の駅「ながおか花火館」の施設概要

道の駅として設置するためには、『駐車場』『トイレ』『ベビーコーナー』『公衆電話』が無料で24時間使用できることが条件となる。この4つの条件を満たすよう、国と長岡市で費用を負担し一体型の道の駅として整備した。

市は地域振興施設として、長岡花火ミュージアム、地場産品売り場、レストラン、フードコート、催事スペース、多目的広場を、国は道路情報提供施設として、道路交通情報、地域情報発信コーナー、休憩コーナーを整備。

（3）道の駅「ながおか花火館」の施設機能

- ・多様な地域資源を知ってもらう『情報発信機能』
- ・地元ならではのメニュー、地場産品の販売、各種イベントを通じて『地域振興・交流機能』
- ・道路利用者に対して『休憩機能』
- ・道路利用者の一時避難場所や隣接する防災ヘリポートと連携した後方支援拠点として『防災機能』

（4）今後の課題

全国的にも珍しい『花火をテーマに取り上げている施設』であるため、

- ①長岡花火会場へ歩いて行ける。
- ②アクセスがよい。（IC付近、幹線道路沿い）
- ③敷地が広い。

という3つの条件を基に現在の場所が選定された。

長岡花火の際に、道の駅「ながおか花火館」駐車場に車を停めて長岡花火を鑑賞する人が多く出ることが懸念され、そのような駐車を防ぐためにはどうしたらよいか、早急に対策を立てる必要がある。

また、地元農作物の産直販売所が出店しておらず、地元野菜を求めるお客様の要望に応えることができていない。何らかの形による地元農作物の産直販売も検討していかなければならない。

さらに、高校生による限定商品の開発や、起業を志す若者による雁木いちばを利用したチャレンジショップの開催など、若い力を発揮できる場として地域経済の活性化と地域ブランド力の強化を図っていくことが求められている。



8 指導講評

新潟県立教育センター 教育企画班

指導主事 竹内 努 様